

町誌編さん室の

島のむんがたり

未来へつなぐ

うまれたシマ
マリージマの記憶

令和3年7月に世界自然遺産に登録され、世界の宝となった徳之島。

世界自然遺産登録記念として50年ぶりの町史第2弾「徳之島町史民俗編」シマの記憶」が令和4年3月に刊行されました。

その中から、徳之島二大行事（シキユマ、浜下り、十五夜）のひとつといわれる、旧暦の8月15日に行われる十五夜行事の記憶を抜粋して紹介したいと思います。



下久志の十五夜

秋の実りや御先祖様に感謝をする十五夜祭りでは、老若男女が

ごちそうを浜辺等に持ちより、月明りをたよりに宴会を楽しみ、宴の最後には参加者全員で唄い踊り（チヨウダラ、キヨウダラ、千人踊り：各集落で呼び名が違つ）大団円を迎えます。

このような十五夜行事で特に盛り上がりを見せたのが綱引きやシマ相撲（組相撲）だったそうです。かつては蹲踞（すんきょ）上体を正したまま、つま先立ちで腰を下ろしひざを開いた姿勢）で互いに組み合い、行事の「はい！」と言う合図で立ち上がり、取組み、背中を地面につけた方が負けとなるシマ相撲が主流でした。

私の暮らす母間では大正七年に母間小学校の校舎増改築のため、大島や鹿児島から来島した大工たちによってヤマト相撲が伝えられたと言われています。

亀津市街地では大瀬川を挟んで二手に分かれて十五夜綱引きも行われたそうです。また六十年ほど前までは花徳はとて馬が多い集

落だったため、十五夜行事では花徳の大湊（ふたばやし）と呼ばれる近くの浜で競馬も楽しんでいました。

そして、相撲といえど、戦後間もないアメリカ軍政下の中、命がけで神戸へ渡つた経験をもつ米川文敏氏が、昭和34年に第46代横

綱朝潮太郎となった歴史的大偉業は、当時の徳之島島民のみならず、奄美群島民にとって大きな希望と誇りとなりました。

自然豊かなシマと共に生きてきた人々の語りや写真、景観を集落ごとに時間をかけて丁寧な調査を行い、丸3年をかけて完成した「徳之島町史民俗編」シマの記憶」。

本を読むのが少し苦手な方も、まずは写真（500点超！）だけでも見て頂ければ昔なつかしい風景や、若かりし頃の親族、友人、知人が写っているかもしれませ

ん。昔話が大好きで語りだしたら止まらない（！？）おじいちゃん、おばあちゃん。みんなが元気なうちに本書を囲み、語らいを楽しん

で頂ければと思います。

ご家族、ご近所、友人、知人、たくさんの方々と吟味していただき、ご意見・ご感想を楽しみに、お待ちしております。町誌編さん室です。

また令和5年度には児童生徒向け簡易版も刊行予定ですので、こちらも楽しみにしてください。

大切なマリージマに誇りを持ち、未来を担うすべてのシマの人々の心が豊かになる、そんな一冊となることを願っています。

（町誌編さん室 尚典子）



シマの記憶で語らう

問 郷土資料館

☎0997-82-2908